

特別支援教育だより

三重県立特別支援学校伊賀つばさ学園 教育支援部 発行
令和3年度 第4号（3月15日）

コロナ禍となり2年が経過しました。子どもたちや同僚など、それぞれにとって身近な人が罹患することが増える中、不安を抱えながらも日々の業務と向き合われていることだと思います。厳しい状況が続く中で、年度末および新年度を迎えることとなります。私たち教職員も、身体だけでなく心も健康に過ごしたいと切に願います。

ところで、コロナ慣れという言葉をよく見聞きします。収束と拡大が繰り返されることで、私たちは毎日の感染者数という数字に注目するあまり、以前の日常を忘れつつあることに気付きます。ちょうど2年前の3月25日、東京の感染者数（41人）について驚きと恐怖を感じたことを思い出します。今となっては3桁くらいでも少ないと感じるようになっていないでしょうか。一方で、報道で見聞きした情報によって過剰に危機感を強めた経験もあるでしょう。このような先入観を心理学においてはヒューリスティックスと言いますが、意思決定の場面ではメリットだけではないことに留意する必要があります。特に不安が増幅しやすい傾向のある、支援が必要な子どもたちの前では気をつけなければいけませんね。

さて、平成19年4月に特別支援教育が本格的に実施されてから15年が経過しようとしています。制度の変更や肯定的な理解の促進によって、人口全体における子どもの総数が減少しているにもかかわらず、特別支援教育の対象者数は大幅に増加しました。通常学級における、発達障害の可能性のある児童生徒が6.5%在籍していることを示した調査結果についてはほとんどの先生方がご存知であることと思います。加えて、医療現場からの報告では10%以上の可能性が指摘されていることもあり、地域差はあるものの厳しい状況の中で教育活動を行っていることは単なる想像ではないように感じます。こうした、特定の教職員だけでは対応できない状況になってきていることから、教職員研修の更なる充実が求められていました。そのような中、特別支援教育を担う教員養成について議論を行っている文部科学省の検討会議は、この2月の下旬に画期的な素案を示しましたのでこの紙面にて紹介したいと思います。

最初に現状の報告があり、小中学校の校長においては7割以上が特別支援学級などの経験がない中で、特別支援教育を含めた学校経営を行っていることが指摘されました。さらに、特別支援学級担任における臨時的任用教員の割合が高いことから、長期的な視野に立って計画的に育成・配置されているとは言い難い現状であるとしています。

そこで、「抜本的に特別支援教育の経験者を増やすためには、原則として全ての教師が比較的若い時期に特別支援教育を担当することが最も有効」であると方向性を示しています。

具体的には、それぞれの所属ごとに以下のような内容でした。

□全ての教師

- ・教師間において交換授業など OJT によって特別支援教育経験者の増加
- ・全ての新規採用教員がおおむね 10 年目までに、特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室の担任を複数年経験
- ・管理職のキャリアパスとしての特別支援教育に関する経験

□特別支援学級、通級による指導を担当する教師

- ・特別支援教育の中核として活躍する教師と全体的な学校経験を積む教師の双方を計画的に育成
- ・資質能力のあるコーディネーター育成と法令上の位置付け

□特別支援学校の教師

- ・特別支援学校教諭免許状の保有率 100%および人事交流による幅広い人材育成
- ・小中学校の状況を理解したコーディネーターの配置とセンター的機能の充実

さらに、管理職や教育委員会、大学および国立特別支援教育総合研究所のそれぞれに対しても、各関係者に求められる具体的方向性が示されています。文部科学省のホームページにおいて会議資料を読むことができますので (https://www.mext.go.jp/kaigisiryu/2021/mext_00039.html) ご一読ください。最後に、キーパーソンとしての管理職のリーダーシップとマネジメントについても言及していることから、組織としての対応の必要性が強調されていると考えられます。

そして、方向性としては共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの更なる推進が求められていることは言うまでもありません。私たち教職員一人ひとりがその理念を正しく理解し、実践していくことで、特別な支援を必要とする子どもたちの学校生活をより充実したものとするとともに、次の世代へとつなげていくことができると考えます。

最後になりますが、1 年間ありがとうございました。今年度は「予防的な取り組み」を推進していく中で数多くの先生方と連携を深めることができましたこと、心より感謝いたします。次年度においても伊賀・名張地域の特別支援教育のさらなる充実に向けて尽力していきたいと考えます。どうぞよろしくお願いいたします。

参考：文部科学省「特別支援教育を担う教師の養成の在り方等に関する検討会議（第 5 回）」

（文責 清都）

令和 4 年度の予定

学校見学会 6/9(木)

福祉事業所向け学校見学会 7/4(月)

小学部公開体験授業 6/15(水)、9/14(水)、10/11(火)

中学部公開体験授業 6/16(木)、9/15(木)、10/20(木)

※変更になる場合があります。新年度になりましたらホームページ等でご確認ください。